

琉球波照間方言の音対応と音変化

大野真男*

(1988年10月13日受理)

1. 波照間方言の音韻体系

波照間島は八重山諸島に属し、北緯24度2分・東経123度42分は有人島として日本最南端に当たる。面積は12.46平方キロ、人口は1985年現在721人、かつては鰹漁業で栄えた島であったが現在では砂糖黍が主産業となっている。八重山の英傑オヤケアカハチ誕生の島でもある。

波照間方言には次の音素が認められる¹⁾。

母音音素 / i e ī ä a o u /

半母音音素 / j w /

子音音素 / ' h g k d t z c s r n b p f m /

拍音素 / N Q R /

波照間方言の音素について特色のある点をあげると次のようである。

- (1) 母音音素のうち、前舌母音として狭母音 /i/ のほかに半広母音 /e/ が認められる。
- (2) 母音音素のうち、中舌母音として広母音 /a/ のほかに半広母音 /ë/ および狭母音 /i/ が認められる。
- (3) 母音音素のうち、後舌母音として狭母音 /u/ のほかに半広母音 /o/ が認められる。
- (4) 子音音素のうち、/h/ のほかに /p/ が、他の多くの先島方言と同様に認められる。これらは本土方言のパ行音と異なり、外来語に限定されず、促音の直後といった音声環境にも指定されない。
- (5) 子音音素のうち、両唇無声摩擦の [F] (/hw/ に解釈される) のほかに、唇歯無声摩擦の /f/ が認められる。

波照間方言には次の拍構造が認められる。

CV CSV CSSV NQR

(Cは子音音素, Sは半母音音素, Vは母音音素, Nは撥音音素, Qは促音音素, Rは長音音素を表す。)

波照間方言に特徴的な音声現象として次のことがあげられる。

- (1) /r/ の子音の異音 (自由変異) として、一般の舌尖弾き音のほかに、舌尖の顫動を伴ういわゆる巻舌の [r̄] が発音される傾向が顕著である。
- (2) 先島方言の一般的傾向として、無声子音に挟まれた環境において、狭母音 [i・i・u] に限らず、[sako:] (咳) のように広母音 [a] についても無声化する傾向にある。
- (3) 先行する無声子音と後続する [r・n・m・z・b] に挟まれた環境において、その広狭に関わらず母音が無声化する。またその際、[tuŋi] (鳥) のように後続する [r・n・m・z・b]

* 岩手大学教育学部

波照間方言拍表

/i/	/e/	/i/	—	/a/	/o/	/u/	/ja/	/jo/	/ju/	/wa/	/wo/	/jwa/
[ʔi]	[ʔe]	[ʔi]	—	[ʔa]	[ʔo]	[ʔu]	[ja]	[jo]	[ju]	[wa]	[wo]	[jwa]
/hi/	/he/	—	/hë/	/ha/	/ho/	/hu/	/hja/	/hjo/	/hju/	/hwa/	/hwo/	—
[çi]	[he]	—	[hë]	[ha]	[ho]	[Fu]	[ça]	[ço]	[çu]	[Fa]	[Fo]	—
/gi/	/ge/	/gī/	/gë/	/ga/	/go/	/gu/	/gja/	/gjo/	/gju/	/gwa/	—	—
[gi]	[ge]	[gī]	[gë]	[ga]	[go]	[gu]	[gja]	[gjo]	[gju]	[gwa]	—	—
/ki/	/ke/	/kī/	/kë/	/ka/	/ko/	/ku/	/kja/	/kjo/	/kju/	/kwa/	—	—
[ki]	[ke]	[kī]	[kë]	[ka]	[ko]	[ku]	[kja]	[kjo]	[kju]	[kwa]	—	—
/zi/	/ze/	/zī/	—	/za/	/zo/	/zu/	/zja/	/zjo/	/zju/	—	—	/zjwa/
[dzi]	[dze]	[dzi]	—	[dza]	[dzo]	[dzu]	[dʒa]	[dʒo]	[dʒu]	—	—	[dʒwa]
/ci/	—	/cī/	/cë/	/ca/	/co/	/cu/	/cja/	/cjo/	/cju/	—	—	/cjwa/
[tʃi]	—	[tʃi]	[tʃë]	[tʃa]	[tʃo]	[tʃu]	[tʃja]	[tʃjo]	[tʃju]	—	—	[tʃwa]
/si/	/se/	/sī/	/së/	/sa/	/so/	/su/	/sja/	/sjo/	/sju/	—	—	/sjwa/
[ʃi]	[se]	[sī]	[së]	[sa]	[so]	[su]	[ʃja]	[ʃjo]	[ʃju]	—	—	[ʃwa]
—	/de/	—	—	[da]	/do/	/du/	—	—	—	/dwa/	—	—
—	[de]	—	—	[da]	[do]	[du]	—	—	—	[dwa]	—	—
—	/te/	—	/të/	/ta/	/to/	/tu/	—	—	—	/twa/	—	—
—	[te]	—	[të]	[ta]	[to]	[tu]	—	—	—	[twa]	—	—
/ri/	/re/	/rī/	/rë/	/ra/	/ro/	/ru/	/rja/	/rjo/	/rju/	/rwa/	—	—
[ri]	[re]	[rī]	[rë]	[ra]	[ro]	[ru]	[rja]	[rjo]	[rju]	[rwa]	—	—
/ni/	/ne/	—	/në/	/na/	/no/	/nu/	/nja/	/njo/	/nju/	/nwa/	—	—
[ni]	[ne]	—	[në]	[na]	[no]	[nu]	[nja]	[njo]	[nju]	[nwa]	—	—
/fi/	/fe/	—	/fë/	/fa/	/fo/	/fu/	/fja/	/fjo/	/fju/	—	—	—
[fi]	[fe]	—	[fë]	[fa]	[fo]	[fu]	[fja]	[fjo]	[fju]	—	—	—
/bi/	/be/	/bī/	—	/ba/	/bo/	/bu/	/bja/	/bjo/	/bju/	/bwa/	—	/bjwa/
[bi]	[be]	[bī]	—	[ba]	[bo]	[bu]	[bja]	[bjo]	[bju]	[bwa]	—	[bjwa]
/pi/	/pe/	/pī/	/pë/	/pa/	/po/	/pu/	/pja/	/pjo/	/pju/	/pwa/	—	—
[pi]	[pe]	[pī]	[pë]	[pa]	[po]	[pu]	[pja]	[pjo]	[pju]	[pwa]	—	—
/mi/	/me/	—	/më/	/ma/	/mo/	/mu/	/mja/	/mjo/	/mju/	/mwa/	—	—
[mi]	[me]	—	[më]	[ma]	[mo]	[mu]	[mja]	[mjo]	[mju]	[mwa]	—	—
/N/			/Q/				/R/					
[ɲ · m · n · ŋ]			[p · t · k]				[ʔ]					

もそれぞれ無声化する。

2. 個別拍の対応

波照間方言の一般拍の対応は原則として次のようにまとめることができる。

本土方言	Ci	Ce	Ca	Co	Cu
				↙	↘
波照間方言	Ci	Ci	Ca	Cu	

ただし、後述するように /zu·cu·su/ は Cu と対応せずに、それぞれ /zi·ci·si/ のように Ci と対応している。その結果、後述するように /zi·ci·si/ のイ段音と中舌母音拍として統合しており、本土の東北方言などにおいてみられるいわゆるズーズー弁の状態と同様のものとなっている。

また、/i·ni/ は Ci と対応せずに、それぞれ /i·ni/ のように Ci と対応している。これは、他のイ段音と同様に一旦は Ci と変化したものが、八重山方言の中でも西表租納や与那国においてみられるようにもう一度 Ci に変化して、後述するように /e·ne/ と統合するに至ったものと考えられる²⁾。

これらのことから、波照間方言の一般拍についての音変化の歴史の概観を想定すると次のように示すことができる。

Co	↙	
Cu	↘	Cu=Cu=Cu
Ci	→	Ci=Ci=Ci (Cu→Ci=Ci/C=z·c·s)
Ce	→	Ci=Ci=Ci (Ci→Ci→Ci/C='·n)
Ca	↔	Ca=Ca=Ca

上記のような音変化の概略を想定しつつ、以下に波照間方言の音対応とその音変化の歴史を子細に検討する。

(1) 本土方言のア行音とは次のような対応関係を示す。

本土	'i	'e	'a	'a	'u
	↙	↘		↙	↘
波照間	'i		'o	'u	

本土 /i·'e/ は /'i/ に統合している。

?ifi (石) ?ita (板) ?itu (糸) ?iru (色) ?inu (犬) ?io (縁) ?impitsi (鉛筆)³⁾

本土 /i·'e/ が /'i/ に対応している場合も認められる。

?issi (五つ) ?iri (西入り) ?isi (息) ?ibi (海老)

またこの他、juda (枝) のように本土 /'e/ が /'ju/ に対応している例も見られる。

本土 /'a/ はそのまま /'a/ に対応している。

?amahap (甘い) ?arigup (歩く) ?agarup (上がる) ?atsahan (暑) ?an (有る)
?attsa (明日)

本土 /'o·'u/ は /'u/ に統合している。

?utu (音) ?ututu (弟) ?uki (桶) ?uja (親) ?udurugup (驚く) ?usi (牛・臼)

?ui (上) ?ugrirup (受ける) ?utagon (疑う)

この他に本土 /'i·'u/ が撥音 /N/ に対応している例、更に脱落している例がみられる。

ngun (行く) ndzirun (出る<いでる>) mman (馬) mahan (うまい) marirun (生まれる)

- (2) 本土地言のヤ行音とは次のような対応関係を示す。

本土	'ja	'jo	'ju
		/	/
波照間	'ja	'ju	

本土 /'ja/ はそのまま /'ja/ に対応している。

ja:tsi (八つ) jama (山) ja:gun (焼く) jamun (痛い<病む>) jasimun (休む)

本土 /'jo・'ju/ は /'ju/ に統合している。

juru (夜) jurtsi (四つ) jumi (嫁) jubun (呼ぶ) jumun (読む) ju: (湯) maju: (眉)

- (3) 本土地言のワ行音とは次のような対応関係を示す。

本土	'wi	'we	'wa	'wo
波照間	bi	bi	ba	bu

本土 /'wi/ (歴史的仮名遣いでキで表記される) は両唇閉鎖音の /bi/ に対応している。

birun (座る<ある>) bin (蘭)

本土 /'wa/ は /ba/ に対応している。

banu (私) bata (はらわた<わた>・綿) basi (鷲) ba:run (笑う・割る) bagasun (煮る<沸かす>) bagarun (分かる) bagahan (若い) baruhan (悪い)

本土 /'wo/ (歴史的仮名遣いでヲで表記される) は /bu/ に対応している。

butu (夫) bui (甥・姪<甥>) bunu (斧) buba (伯・叔母) budzama (伯・叔父) buduri (踊り) bututsi (一昨日) bun (居る<をる>) burun (祈る)

本土 /'wo/ が /u/ に対応している例もわずかにみられる。

?ugamun (拝む) ?uwarun (終わる)

本土 /'we/ (歴史的仮名遣いでエと表記される) も, birun (酔う<ゑう>) のように原則として両唇閉鎖音の /bi/ に対応していると考えられるが, kui (声) ?i: (絵) のように /i/ に対応している例もみられる。

- (4) 本土地言のハ行音 (<パ>行音) とは次のような対応関係を示す。

本土	hi	he	ha	ho	hu	hja
波照間	pi	pi	pa	pu	fu	pja

本土 /hi/ は両唇閉鎖音の /pi/ に対応している。

pi: (火) pin (日) piru (昼・ひる) pitu (人) pitu:tsi (一つ) pikun (引く) pikarun (光る)

本土 /hi/ が /pi/ に対応している例も見られる。

pinari (左) pini (髭) pinto: (返事<返答>)

本土 /he/ は /pi/ に対応している。

pin (屁) pira (唐鋤<へら>) pita (下手) pigun (削る<へぐ>)

本土 /ha/ は /pa/ に対応している。

